

報道発表資料
平成19年7月24日
気象庁

平成19年（2007年）新潟県中越沖地震における 緊急地震速報の利用状況について（暫定）

気象庁では、平成19年（2007年）新潟県中越沖地震の際に、地震の検知から3.8秒後に緊急地震速報の第一報を発信しています。

このたび、上記地震発生時の緊急地震速報利用状況について、緊急地震速報の先行利用機関等に対してアンケート調査を行いました。アンケート回答の中から、緊急地震速報に基づいて揺れに備えるための行動や機器の制御等を実施した主な事例について別紙のとおりまとめましたのでお知らせします。

なお、アンケート調査は現在も継続中であり、最終的な結果は気象庁HPに掲載する予定です。

[本件に関する問い合わせ先]

気象庁地震火山部管理課 代表 03-3212-8341（内線 4505）

平成19年(2007年)新潟県中越沖地震における緊急地震速報の利用状況(暫定)

(注)現在もアンケートを集約中であり、今回の結果は暫定的なものである。

機関名(五十音順)	受信場所	大きな揺れの前後での緊急地震速報受信状況	揺れに備えるための行動や機器の制御等の実施状況
上田市丸子地域自治センター	長野県上田市	17秒前に受信。	有線放送先の家庭では、「身構えた」あるいは、実際に「ガスの元栓を確認し、机の下に潜り込んだ」「子供達にタンス等倒れる危険性のある物から離れるよう指示した」という方もいた。
独立行政法人国立病院機構災害医療センター	東京都立川市	52秒前に受信。	エレベーター、全館放送、自動ドアについての機器自動制御を実施した。(職員等の行動は、現在アンケート調査中)
相模鉄道株式会社	神奈川県横浜市	地震計で揺れを検知する1分03秒前に受信。 受信時刻 : 10時13分32秒 予測到達時間 : 10時14分22秒～23秒(予測震度3～4) 地震計検知時刻: 10時14分35秒(最大震度3)	緊急地震速報を受信後、運転中の各列車は一旦停止をしたが、当社沿線の地震計においては最大値が震度3であったため、運転を再開した。
東京急行電鉄株式会社	東京都	約45秒前に受信。	緊急地震速報システムから列車無線で緊急停止指令を自動的に送信し、運転士が列車を緊急停止させた。
株式会社トータル・ライフサービスコミュニティー	新潟県新潟市	本震では、「すぐに地震が来ます」の音声ガイダンスが2度鳴り、鳴り終わった直後(鳴り始めから10秒程度経過後)、揺れ始めた。余震でも同じ音声ガイダンスが2度鳴り、数秒たってから揺れた。	本震では、屋外で遊んでいた子供を屋内に呼び戻して揺れに備え、怪我は無かった。
戸田建設株式会社	東京都千代田区	約50秒前に受信、時間・震度の表示を確認したのは約30秒前。	作業、重機の停止。当日は危険作業がなかったので特別な避難は行わなかった。
	東京都中央区	表示を見た時点は約42秒前、実際に揺れが到着したのは予測時間より2秒ほど後。	クレーン作業を止めるよう指示。地震後安全を確認。実際の停止はやや遅れた。
	東京都台東区	表示を見た時点は約20秒前。	クレーンに連絡。地震後安全を確認。ただし結果的にほとんど揺れなかった。
	長野県松本市	約30秒前に受信、時間・震度の表示を確認したのは約20秒前、予測時間とほぼ同時に揺れが到着。	作業、重機の停止を作業者に指示。地震後の安全を確認。
東武鉄道株式会社	東京都	約30秒前程度に受信。	予め列車を減速または停車させることができた。
株式会社バルコミュニケーションズ	新潟県新潟市秋葉区	新潟市のオフィスではS波の十数秒前に情報を受信したが、休日でオフィスが無人だったため、自動で業務用の携帯メールに転送。携帯メールで大きな揺れが始まってから約10秒くらいに受信。震度は5程度。	今回は大きな揺れが来ている最中のため事前の対処は出来なかった。しかしその最中で、おおよその揺れの予測と判断が出来た。
松本市役所	長野県松本市	S波到達時刻: 10時13分51秒 第1報受信時刻: 10時13分29秒(S波到達の22秒前) 警報発報時刻: 10時13分36秒頃(S波到達15秒前) S波到達時刻は、長野県設置の地震計に基づく。	職員向けの庁内放送に基づき、 ・職員は机の下に隠れる等の行動を取った。 ・来庁者に口頭で、警戒と危険物からの退避を指導した。